

水戸中央教会献堂式

山本 隆久 (水戸中央教会 牧師)

神様のお守りと恵みの内に献堂式を 2016 年 7 月 17 日午後 3 時より 5 時半に行うことができました。教会員一同、皆様に心より御礼申し上げます。式辞は、飯塚拓也 関東教区被災支援委員会統括主任より頂きました。被災の苦難と再建の過程で起こった様々な困難を超えて働かれる主の業を賛美し、感謝しつつ、私たちの身の回りの被災の絶望と不安の中にいる人に、「今や、恵みの時、今こそ、救いの日」の御言葉の真実を証することが示されました。石橋秀雄日本基督教団議長は、祝辞の中で、かつて教会内部の問題や混乱を乗り越えて礼拝が守られてきた水戸中央教会を神様ご自身が、「神の畑、神の建物」としてその再建の業を進めてこられたことを示され、伝道への勇気を頂きました。秋山徹関東教区議長からは、関東教区の皆さんが、「涙と共に蒔くものは、喜びの声と共に刈り取る」の御言葉を信じ、私たちの背後で様々な労苦を担って共に歩み祈ってくださったことを言外に読み取ることができ感謝でした。福島純雄茨城地区長は、ご自身の会堂建築の困難を通して、神様のために労苦する恵みと、会堂は自分たちの虚栄心のためにあるのではなく、真実な祈りの家とされなければ何の意味もないことを示して下さいました。

小さな群れでありながら、教団、教区の支援総額は借入も含めて 7 千 5 百万円に上ります。そして、それ以外にも教団関係はじめ、カトリック教会や日本福音同盟、ドイツ、韓国からも献金が寄せられ大変に励まされました。ドイツのコルビヌス教会は、シューア夫妻を代表として献堂式に派遣して下さいました。感謝会では、ゴスペル・フラダンスが披露され、在日インドネシア人教会大洗ベツレヘム教会は男性ボーカルグループの素晴らしい賛美で、私たちの喜びを増し加えて下さいました。

主にある平和と一致を求めそこに伝道の輪を広げていきたいと願っています。感謝。



教区間の祈りと連帯を求めて―東北教区総会問安報告―

東野 尚志（常置委員）

東日本大震災から5年を経て、関東教区内の被災教会の再建・復興にも一定の目処がついたため、全国の教区総会を問安して、報告と挨拶をさせていただくことになりました。常置委員会で分担を決めて、私は、5月24日（火）、25日（水）、仙台青葉荘教会で開催された第71回東北教区総会に派遣されました。仕事の都合で、第一日のみの参加でしたが、「関東教区問安使」として准議員席に案内され、夕食前の議事の中で約20分、挨拶と報告の時間を与えていただきました。

総会出席者の資料の中に、あらかじめ関東教区からの報告と感謝の文書が配付されており、秋山徹議長と飯塚拓也統括主任が執筆された感謝と報告、また水海道教会の加藤久幸牧師による「関東・東北豪雨」被災支援についての報告資料に触れながら、関東教区の状況について説明させていただきました。ちょうど一週間前に開催された関東教区総会では、「東北教区放射能問題支援対策室いずみ」の運営委員長である布田秀治（ふだひではる）牧師をお招きして報告をうかがっていたこともあり、実際に顔と顔を合わせて語ることの大切さを改めて深く味わいました。それぞれに宣教の課題を担いつつ、東北教区と関東教区は、まさに隣り合う教区として、これからも共に祈り合い、支え合っていきたいと述べて感謝の挨拶を終えると、大きな拍手で応えてくださいました。

◇各教区訪問一覧

教 区	訪 問 者	教 区	訪 問 者
北 海	島 田 進	東 北	東野尚志
西東京	加藤久幸	神奈川	小池正造
東 海	栗原 清	中 部	疋田國磨呂
京 都	村田 元	大 阪	村田 元
兵 庫	島 田 進	東中国	秋山 徹
西中国	飯塚拓也	四 国	飯塚拓也
九 州	熊江秀一		

第1回東日本大震災被災支援委員会報告

小池 正造（支援委員会書記）

6月7日常置委員会後に第66総会期第1回委員会を大宮教会で行いました。

小林委員からボランティア状況が報告されました。仙台エマオが継続的に活動支援をしていた笹屋敷での活動は、9月をもって終了するとのことです。その後は不定期に仮設住宅を訪ね、お茶会・食事会を開催する予定です。石巻エマオは、継続して仮設住宅訪問を続けています。食事ボランティアについては、必ず事前の連絡をお願いしたいとのことです。

東日本大震災被災支援委員会の改組について、今後常置委員会に提案し検討していくことになりました。昨今、様々な災害が起こっているため、東日本大震災に限らず、スムーズに対応をしていくためです。